明　倫
まちづくり NEWS

第４号 2024.5.1

発行　明倫まちづくり委員会
部数　２０００部

1.　松井京都市長に聞く
2.　まちづくり委員会紹介
京の都…歴史と共に　井上
「祇園祭のまち」の建物　今村
まちなかの暮らし　小島
職住のまち残すことの難しさ　塩月
船鉾みたいな家たてて　辻
十年一昔　露木
意見交換だけでなく　丹羽
まちづくりは必要か　長谷川
3 .お知らせ：ペトロフコンサート

住民自治の伝統を大切に

京都市長　松井孝治

明治２年の「下京三番組」小学校設立当時、その地にあった石門心学の私塾「明倫舎」の名を冠する明倫学区。その名称は今も地域の人々に愛され、大切に受け継がれています。そんな明倫の地で、住民の皆様が手作りで回を重ねておられる「明倫まちづくりニュース」第４号の御発刊を、心からお祝い申し上げます。

さて、明倫学区では、本市の「地域景観づくり協議会制度」を活用され、新しく地域にお越しになった方々との丁寧な話し合いに努めておられます。多様な世代が交じり合いながら、まちの魅力を後世にしっかりと伝える。そんな具体的な方策を検討・実践してこられました。

本市でも、令和２年に「京都市京町家の保全及び継承に関する条例」の指定地区として、明倫学区を含む職住共存京町家保全継承地区を指定。住民の皆様の御協力をいただきながら、京都の宝である京町家の保全継承に努めているところです。

そして、市会での熱いご議論の末に実現した本市の「新景観政策」の導入から早や１５年余りが経過しました。本市といたしましても、京都の誇りである町衆文化とその心意気をしっかりと生かしながら、これからも「生きた景観」の創造に努めてまいる決意です。

「古きをいつくしみ、新しき世を切り拓く」。その思いを胸に、先人たちから引き継がれてきた住民自治の伝統を大切に、共々に「突き抜ける魅力のある

文化首都･京都」の実現に全力で取り組む決意です。引き続き、御理解、御協力をお願い申し上げます。

まちづくり委員会紹介

2023 年度も多くの建物や看板などの新築、改築、改装と意見交換の機会がますます増える状況でした(約 23 件)。私たちが考える明倫地域の理想像について、各委員が自らの考えをここに披露させていただきます。これがまちづくり委員会の基本理念です。＊文中の写真は各自のお勧め景観

2024.4.5

京の都…歴史と共に

井上成哉

私が「明倫学区」に関わってきて 35 年位になるのでしょうか？祇園祭りで「八幡山」の町内で暮らしていると、様々な形でご町内の方々と交流が深まります。たまたま、パソコンが使用できる…と言うことで、明倫自治連の事務方を手伝ってほしいとのことで、自治会との深いつながりが始まりました。その時初めて明倫学区に「まちづくり委員会」を新設しました。

当時、私の自宅の西側に 13 階建ての巨大マンションが建ち、まわりを囲むご町内の方々からの反対意見も多く、反対運動で、裁判まで行っていたのです。しかし当時は好景気と高層ビル建設が猛烈な勢いで進んでいた時代なのですね。

さて、当時から地域住民の方々が、自分たちの地域をどのような「町」にするのか？と深く考慮され、当時の京都市建築行政審査会の巽京大教授は「…景観・町並みの保全にとって極めて残念な事と言える。…京都市が進めている都市景観・町並みの保全、そのための建築協定を無意味にするほどその場にふさわしくない規模と形態を示している…マンション建築業者は…住民の意向に耳を傾け、都市景観や町並み、周辺住民の住環境に十分配慮した建築を計画することが求められよう…」との特別付言をされておられます。

あれから数十年経ち、明倫学区住民の 3 分の 2 はマンションに居住されるようになりました。今、私達の居住空間及びその周辺を含め、どのような「まちづくり」を求められているのか？地域をどのように安全安心して暮らせるか…。隣近所の方々との交流をいかに深めるか…。

主人公は明倫学区に居住しておられる住民の方々です。歴史的にも重要な地域、祇園祭りを行う「山鉾町」が存在する地域。私達、居住している人々が主人公として、この「明倫学区」としての都市景観、町並み、そして祇園祭りの山鉾町を守り伝えていくことが、大事なことだと思います。

「祇園祭のまち」の建物

今村結香

「明倫学区に残したい建物」と記されたエンブレム、見かけたことはありませんか？10 年程前に、明倫学区内全戸へのアンケート（「いいと思う・ぜひ残したいと思う建物」を記入する自由回答形式）を経て、設置に至ったそうです。引越してきて、気になっていました。

そういえば！とピンときた方、見かけたのは京町家や町会所でしょうか。こうした建物は控えめな印象も受けます。そのため、探してみよう！と思われた方は祇園祭の頃にひと際、人の集まる建物にもご注目を。山鉾巡行を担いつづけ、その文化を創出する「祇園祭のまち」ならではの工夫やしくみに、驚かされるかもしれません。

「明倫学区」の由来となる明倫小学校（現京都芸術センター）などの近代建築、町並みや路地にも設置されています。つまり、日々の暮らしに寄り添いつつ、積み重なる歴史のなかで培われたまちの個性を伝える建物・場所に、「いい・残したい」との思いが寄せられていたのです。そこには、思い出や先人たちへの敬意も込められていました。

さて、時代に呼応して変化するまちが個性を忘れないように、受け継がれた工夫や生活の知恵をこれからの建物にも実装していけたなら。そんな温故知新の視点も、建物に仮託されたみなさんの思いとともに、「祇園祭のまち」の未来を見晴るかすまちづくりの一助になると信じています。

まちなかの暮らし

小島冨佐江

四条烏丸から歩いてすぐ、大きな通りに出るとビルが立ち並ぶまち。でも少し中に入ると人の暮らしが息づいているのがわかる明倫学区。呉服のまちと言われてはいるが、気がつくと室町には集合住宅が立ち並び、近年はホテルがたくさん出現、日々多くの観光客が行き交うまちになっている。

商業地域なので、どのようなものも受け入れることで成り立っているのかもしれないが、あまりにも大きく変わっていくまちなかに戸惑いながら暮らしているのが私たちだと思う。私はこのまちなかが少しでも環境よく、安心で安全な暮らしでいられるように次の世代へ贈り届けたいと思い、まちづくり委員会に参加している。明倫学区のまち歩きをしていて思うのが、歴史の積み重ねがこの界隈には色濃く感じられ、ついついあちこち歩き回ってしまうことも多々ある。とても魅力的な場所なので、大切にしたいと思っている。過去の文化を引き継ぎながら、日々動いているまちなかの面白さも相まって、次の世代にはどのような明倫学区になるのだろうとあれこれ考えている。

職住のまち残すことの難しさ

塩月佳世子

京町家のつくりは、よく考えられていて玄関を入ると表の間は商売（職）、通り庭を通って住居の間と職住一体で生活できる家屋になっています。お隣や裏のお家は、壁や塀でつながっているので迷惑がかからないよう気をつけて生活したものです。ご近所さんに迷惑をかけると商売の繁盛も遠のくといわれ町内中その思いで仲良く暮らしていたのです。

コロナ禍の前、インバウンドの波が押し寄せてきた頃から「職住のまち」と言われるまちなみが商売だけの建物（テナント）になってきました。今もなお景観協議会（意見交換会）が頻繁に開かれています。まちづくり委員会発行の明倫まちづくりルールブックをご存知でしょうか？

このルールブックは、京都市の地区計画に基づいて作成されています。意見交換会に来ていただいたオーナー様や建築の専門家の方々にこのルールブックにある「祇園祭にふさわしいまち」でとお願いしておりますが、これは大変難しいことです。それぞれ、建物の特徴をもったデザインであり、豪華な装飾品で動く美術館といわれる山鉾が通る時、建物のデザイン（背景）が邪魔にならないような景観であってほしいと願っているからです。そして、今後も明倫学区が昔からの「職住のまち」で暮らす知恵（お互いの気遣い・思いやりや配慮）をもったまちでありたいと願っています。

ルールブックのアドレス：
meirin-news.com/1102_meirinrulebook_rev_NA.pdf

船鉾みたいな家たてて　ねっから お客がコンチキチン

辻　斉

この童べ唄について、若原史明（1982）は『祇園会山鉾大鑑』で「年代作者不明なれど天保頃からか（p. 398）」と書いています。船鉾は前祭でも後祭でも山鉾巡行の最後尾を行く立派な鉾ですが、建物となると話は違います。天保の景観は、新町通に残るような切妻造平入りの家並み（歴彩館蔵『三条油小路町並絵巻』参照）で、そこに船鉾のような異形の家を建てたら「お客がコンチキチン」、客が来ずに店がつぶれるというのです。洛中の人々は昔から景観を大切にしてきたのです。

とはいうものの明倫小学校や三条通の日本銀行京都支店（文化博物館別館、重要文化財）が建てられたときは、「船鉾みたいな」異形の建物だったでしょう。それが今は近代洋風建築として高く評価されています。同じ「船鉾みたいな家」でも、「お客がコンチキチン」になるのか、高く評価されるのか、その違いは何なのでしょうか。

浄妙山を参与観察研究している社会人類学者 Brumann さん（骨屋町の高谷さんによると、お祭りでは 198cm の長身を活かして大活躍）がコロナ禍の前年に入洛され、地域景観づくり協議会を調査し、2021 年にウィーン大学で ”From Private to Public and Back?” という講演をされました。この講演を聞いて私は「私（private）」と「公(public)」が気になりました。自分の土地に自分の資金で建築するのは私的な行為なのですが、結果として景観という公的なものに影響します。だから「公」を考えない身勝手な行為は害悪です。かといって「公」を振りかざして「私」を押さえつけるのも変です。「私」と「公」の間を行きつ戻りつ、互いに相手を尊重し、「私」を活かし「公」も納得でき、「お客がコンチキチン」とならないように意見交換するのが地域景観づくり協議会の役割だと私は思います。

十年一昔

露木理也子

都市計画のタイムスパンで人の一生は短く、京都には普遍的な価値を実体として次世代へ伝える役目がある。一個人の思いとしては、たとえ外国で暮らしても「京都」に思い起こす「静かな美しさ」はずっとそこにあって欲しい。私にとってそれは加茂街道から北山・比叡山・東山を望む一続きの風景や、寺社・町家の石畳、近代建築の足回りなどに通ずる余白のような場所であり、ざっくり言うと「何もない公共空間」こそ趣があるということかもしれない。実際そのような空間を維持するには大変な手間とお金がかかる。

景観や歩行空間には公共性があり、消費と切り離して守る仕組みがないと息が詰まる。私有地でも隣合うビルが舗装材をボーダーレスに配し、すっきり管理されていると都会的で歩きやすく広々と気持ちが良い。広告物のない空間が、都心にどれだけあるだろうか。

近年、広場を備えたランドマークの近代建築が皮一枚を残して別物となり、公共施設や橋も生まれ変わり、山裾では地域の特性さえリセットされて、変化そのものを拒絶せずとも新たな個性が喪失感を上回ることは滅多にない。明倫の景観協議会でも固有の場所が抜け落ちて他のどこでも変わらないような計画について意見交換する場合、何が「らしさ」か都度問いかける。

意見交換だけではなく

丹羽結花

学生時代、祇園祭の調査で明倫学区を行き来していたのが 40 年ほど前。京町家調査や NPO 組織のお手伝いで出入りするようになったのが 25 年前。そして、9 年前、景観まちづくり協議会制度が始まり、いつの間にかオブザーバーから委員という形で務めるようになった。

景観協議会の意見交換では、建物の形やデザイン、色や材質を合わせていくことも大事だが、良いモデルの通りにすれば良い町並みができるわけではない。どんな気持ちでまちの人々が住まい、商いし、生活しているのか、新規事業者や住み手と共有することが何よりも大切だと考えている。

多くの人が「京都らしい」と思っていることと、明倫学区の地域性は違うし、実際に住んで、生活している人々の意識もちょっと違ってきている。時代の流れや目先の利益に惑わされることのない「明倫学区らしさ」を再認識する機会が意見交換の場である。そんな暮らしのあり方を話し合いながら、理解を深める場でもあるので、ちょっと興味を持たれたら、もう少し知りたいと思われるならば、オブザーバーも大歓迎、みなさまと知恵を出し合いながら、一緒に考えていきましょう。

まちづくりは必要か

長谷川明

まちづくりに関わって 23 年経つ、真後ろに 11 階建てのマンションが出来る、日照権だの、観望だの、風害、電波障害、工事騒音、いろいろな課題に立ち向かうには、まちづくりが必要だ、地域の住民が団結してこのテーマに取り組まなくては。

そうこうしているうちにもマンションが建ち、人が増え、京都市が慌てて、高層条例を出し高さ制限が出来た。少しは落ち着いたかと思いきや、民泊、ホテルラッシュ、何とか止める手立ての景観協議会？　我が明倫の生命線は祇園祭。「お祭りに相応しい街に」これが頼りのまちづくり、高さは 5 階まで、軒をつけろ、色は控えめに、窓ガラスの大きさは、明かりの色は、看板のデザインは、照度は、あれこれ試行錯誤の意見交換を重ねて現在（いま）がある。

「祇園祭に山鉾が建つ風情を守る」とは？。時代だと言っても、河原町や御池通で見る鉾と新町通で見る鉾は神々しさが違う、新町通りに帰ってくる山鉾の姿が一番相応しいと思っている。山鉾が引立つのは大通りではなく街中の通りだ。大津まつりしかり、高山まつりしかりである。先人が守ってきたお祭り、自分たちが誇りと思う祇園祭ならば、歴史を大切に、文化を守る、これはこの地域に住まう人達の義務ではないのか。まちづくりはこの地に対する敬意であって苦情相談ではない、歴史を知らないデベロッパーや設計士にはもっとこの地域を勉強してほしい、建物の新陳代謝は必要だが、流行りや思い付きの建築はこの地域には必要ない。ここは京都の歴史の詰まっている土地なのだから。

2024 年度より、小島氏に委員長譲ります、今までありがとうございました。

まちづくり委員募集中！

明倫のまち（三条通↕四条通＋烏丸通↔西洞院通）あるきや地域のことを深く知るプログラムなどを企画したり、明倫学区のことをもっと知りたい、ちょっと気になることがあるので、一緒に解決したい、祇園祭の事、明倫の歴史、生活のルールなどについても考えてみようと思われたら、一度のぞいてみてください。

毎月第一火曜日１８時３０分より芸術センター３階会議室で、意見交換しています。いつでも大歓迎です。

コンタクトは **info@meirin - news.com**

＊芸術センターの休館日は日程が変わります。

まちづくり委員会今後の予定

- まち歩き（6 月中旬）
- 町家コンサート（今秋）
- 講演会

第 43 回
ペトロフピアノ
コンサート

6 月 14 日金曜日
開場 18 時 30 分開演 19 時

ピアノ演奏
イリーナ・メジューエワ
会場：芸術センター講堂

チケット：3000 円当日 3500 円
チケット販売；芸術センター窓口
チケットぴあ　P コード 265－434
詳細：
http://www.meirin-news./old/petrof2.pdf

編集後記

新しく京都市長に就任されました松井氏に、厚かましくもご多忙を承知で、まちづくりに対するお考えを伺えないかと記事をお願いしたところ、ご快諾頂きましたことは感謝に堪えません。タイトルの「住民自治の伝統を大切に」という市長の思いを私たちも同じ志で頑張りたいと思います。　長谷川